

山上の変容

マルコによる福音 9:2-10

(そのとき、) イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、どう言えばよいのか、分からなかった。弟子たちは非常に恐れていたのである。すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」弟子たちは急いで辺りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが彼らと一緒におられた。

一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない」と弟子たちに命じられた。彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。

説教

イエスの姿が輝く、目の前でそれを目撃したらさぞ驚くことだとおもいます。福音書はイエスがおこなうたくさんの奇跡を伝えます。きょうの個所もそのうちのひとつです。でもわたしにはたくさんある奇跡のうちのひとつとは思えない、とても気にかかる聖書個所です。わたしたちの聖書日課ではイエスの受難と栄光におもいをはせましょうという薦めとして、四旬節に「白く輝く」イエスを読みます。受難と栄光はひとまずおいておいて、ちょっと視点をずらして「エリヤとモーセ」と語り合うイエスの意味を考えてみましょう。

エリアは旧約聖書のなかの偉大な預言者です。モーセは十戒を受け取った預言者であり、エジプト脱出の指導者でもあります。エリアとモーセがセットになって「律法と預言者」つまり、旧約聖書全般のたとえになります。

イエスは三人の弟子をつれて山に登ります。そこで白く輝く姿に変容し、エリアとモーセと語り合った、と福音書には記録されています。

さて、イエスが山に登ったのはエリアとモーセに会うためだったのでしょうか。イエスはエリア・モーセと約束して（いついつのどこで会いましょうね）登山したのでしょうか。

いろいろ考えてみたのですが、イエスが約束していたとは思えません。でも偶然に会ったとも考えることもできないし、はたしてどうだったのかよくわかりません。

わたしはよく奇跡を願います。そうやって欲しいなという自分の気持ちが強いのでそれが奇跡を願うというかたちになってしまうのかも知れません。でも、わたしの思いをはるかに超えたかたちで思いはかなう、逆にいえばちっぽけなわたしの願う奇跡はちやちな願いで、神はそれ以上のめぐみをゆたかに与えてくれることも知っています（正直に言えば理屈では知っています）。ペテロは白く輝き、エリア・モーセと語り合うイエスを目撃してびっくり仰天しました。イエスに従っているわたしたちもペテロたちと同じように、イエスに連れられて山に登っているのかもしれない。そこで光り輝くイエスが「律法と預言者」エリア・モーセと語り合う姿を目撃しているのかもしれない。ただ、そのめぐみに気づかない。なんか頓珍漢なこと（仮小屋を建てましょうとか）そんな反応をしているのかもしれない。

わたしたちはそれぞれの人生を懸命に生きています。ひとつひとつの人生はそれは小さなものです。しかし、神の目からみればその小さな人生のひとつひとつが大切なものです。わたしたちが願う奇跡はかならず神さまは聞いてくださり、その願いはかないます。わたしたちが願ったことをはるかに超え

るものとして神さまはかなえてくださることを信じて祈りましょう。主のめぐみに気づく者にわたしたちを変えてください。
